

「朗読・語り」
言祝の会

ことばによって祝福することを「言祝」といいます。
言葉のもつ不思議な力で人々を幸せにしたい。
それが私たちの願いです。

生誕五百年によせて

千利休を語る

監修
大友
浩

語り 平野啓子

「利休と秀吉そして最後の点前」

井上靖作『本覚坊遺文』終章より

語り 熊澤南水

「ことしかぎりの」

山本兼一作『利休にたずねよ』より

語り 内藤和美

「死を賜る」

山本兼一作『利休にたずねよ』より

日時 令和4年 11月17日(木)
午前の部 11:00 開演 / 午後の部 15:00 開演

チケット 全席指定 5,000 円

会場 三越劇場 (日本橋三越本店 本館 6F)
※二階席への昇降は階段のみ、エレベーター等はございません。

《チケットお問い合わせ・申し込み》

[先行予約受付中] (チケット発券は9月以降)

- 平野啓子 TEL 080-1347-3827
FAX 042-363-6950
- 熊澤南水 TEL 047-322-2229 (留守番電話対応)
FAX 047-322-0336
- 内藤和美 TEL 042-593-3718 (留守番電話対応)
FAX 042-593-3718

[一般発売開始 9月1日(木) 10:00 ~]

※三越劇場の前売初日は電話・インターネット予約のみ

■三越劇場 TEL 0120-03-9354 (受付時間 10:00~18:00)

■三越劇場チケットショップ <http://mitsukoshi.mistore.jp/bunka/theater/>



MITSUKOSHI
三越劇場 〒103-0001 東京都中央区日本橋室町1-4-1
日本橋三越本店本館6階

主催：平野啓子事務所オフィスエイワン(有)

※この公演は新型コロナウイルス感染症対策を徹底して開催いたします。
※内容は都合により変更する場合がございます、予めご了承ください。

生誕五百年によせて

千利休と語る

監修 大友 浩

語り 平野 啓子



「利休と秀吉そして最後の点前」

井上靖作 『本覚坊遺文』 終章より

千利休が自刃する直前の茶室。利休は太閤秀吉に、最後に賜った死がこれまでいただいたものの中で、「一番大きい頂きもの」だと言った。利休が「死」と引き換えに得たものは何か。生き生きと利休の心に広がる茶の世界。最後の点前が始まる。
井上靖が利休自刃の謎に迫る、晩年の代表作。

語り 熊澤 南水



「ことしかぎりの」

山本兼一 作 『利休にたずねよ』 より

「なんと、命の根の太い男なのだろう。宗恩は夫・利休の寝姿を見て、心の中でそう呟いた。信に満ちた、畏れを知らぬように泰然としている。若い頃は、それがとてつもない頼もしさに見えた。その利休に長男の道安が遺言の話を持ち出した。切腹の三月前、正月の事であった。」

語り 内藤 和美



「死を賜る」

山本兼一 作 『利休にたずねよ』 より

天正十九年（一五九一年）二月二十八日朝、京 聚楽第 利休屋敷。利休が作った数多くの茶室の中で一番気に入っている一畳半の席で利休は最後を遂げます。秀吉との確執、妻・宗恩とのやりとり、そしてあゝの女のこと……。一服の茶は繊細さと強靭さを持って迫ってきます。第一四〇回直木賞受賞作。

孤高の達人による化学反応

監修 大友 浩（芸能研究家）

「語り朗読」という芸術を、最も高い境地で演じていると私が思う方々をお招きしてお茶会を開いたところ、大変なことになりました。深い深い芸談から集客の悩みまで、話に花が咲く花が咲く……。そこでわかったのは、皆さんが高い境地を切り拓いてきたのは、それぞれの「個の力」によるものだということでした。さてそこで、この方々を一堂に会した語り朗読会を開いたらどういうことになるだろうと。考えただけでもワクワクが止まりません。それが実現します。間違いなく現在の語り朗読芸の到達点を示す会になります。ぜひお越しください。

平野 啓子（ひらの けいこ）

語り部・かたりすと。早稲田大学卒。徳川夢声氏、幸田弘子氏等、プロの表現に魅了され、後に「語り」を鎌田弥恵氏に、「朗読」を山内雅人氏に師事。文学等を暗誦する語り芸術の道へ。国立劇場をはじめ、各地の劇場、屋外ステージ、レストランなど国内外で上演。NHK キャスターや大河ドラマ「毛利元就」、「芸術劇場」語り、「日本の伝統芸能鑑賞入門」聞き手も務める。文化庁文化交流使として海外派遣。平成9年度（第52回）文化庁芸術祭大賞や文化庁長官表彰、松尾芸能賞優秀賞、徳川夢声市民賞、ギャラクシー賞奨励賞 受賞。大阪芸術大学教授、武蔵野大学教員、後進育成も。昨年、35周年記念公演を展開。

熊澤 南水（くまざわ なんすい）

1941年・東京生まれ。樋口一葉の文体の美しさと、ことばの響きに魅了され、子育て一段落の40歳の時、一念発起。朗読の勉強を始める。中川貞子氏にボランティア朗読を、三上左京氏に舞台朗読を師事。全国各地に「南水ひとり語り」として活動を続けている。平成3年 日本文化振興会より「国際芸術文化賞」平成23年 下町人間の会より「下町人間庶民文化賞」平成28年度（第71回）文化庁芸術祭優秀賞受賞

内藤 和美（ないとう かずみ）

高橋博氏に「物語」山内雅人氏に「朗読」小金井芦州氏に「講談」を学ぶ。話芸集団「ぶれさんぼうず」発足に参加。ここで西澤實作品に出逢い公演多数。（何れも故人）語りの会「ぼてふり」「ハートストリングス語りと朗読の会」など定例公演をはじめ、現在ラジオ NIKKEI 朗読あぶりに出演中。NPO 日本朗読文化協会他で後進の指導にもあたっている。2019年木母寺「梅若忌」にて「朗読・隅田川」を奉納。令和元年度（第74回）文化庁芸術祭優秀賞受賞